

令和 6 年 5 月 29 日現在

機関番号：12102

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2020～2023

課題番号：20K03385

研究課題名(和文) 性的依存症のリスクファクターの検討を通じた治療プログラムの開発

研究課題名(英文) Development of treatment programs for sexual addictions through exploring related risk factors

研究代表者

原田 隆之 (Harada, Takayuki)

筑波大学・人間系・教授

研究者番号：10507742

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：性的アディクションは、現在のところ正式なアディクションとは認められていないものの、性犯罪との関連も深く、社会的に大きな問題を引き起すため、その機序や治療に対する研究の重要性が高まっている。

本研究は、性的アディクション(パラフィリア障害および強迫的性行動症)の認知的・行動的リスクファクターについて、物質依存症と比較検討しながら検討し、さらには精度の高いアセスメントツールの開発を目的とした。加えて、治療に関して、すでに認知行動療法による治療プログラムを開発しているが、本研究の知見を活用することで、治療プログラムを改善し、治療効果のさらなる向上を目指した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

性的アディクションについては、世界的にも研究が非常に少ない。そのため、これを正式に「アディクション」と呼ぶのかどうかについて議論がある。本研究では、性的アディクションの様々なリスクファクターを検討し、それが他のアディクションと多くの共通点があることを見出した。特に、時間的展望と呼ばれる認知的リスクファクターの重要性を明らかにした。一方、性的アディクション特有のリスクファクターもあり、それを活用したリスクアセスメントツールを開発することで、臨床的な活用の道を開くことができた。社会的に性犯罪が大きな問題となっている中で、本研究の成果が、そのアセスメントや治療に大きく貢献できることは間違いない。

研究成果の概要(英文)：Sexual addiction is currently not officially recognized as addictive disorders. However, it is closely related to sexual offenses and triggers significant social concerns. Thus, research on its mechanisms and treatment is extremely important. This study aimed to examine cognitive and behavioral risk factors for sexual addiction (paraphilic disorders and compulsive sexual behavior disorders) in comparison with substance addiction as well as to develop an assessment tool with high accuracy. In addition, with regard to treatment, we have already developed a treatment program based on cognitive-behavioral therapy, and by utilizing the findings of this study, we aimed to improve the treatment program and further increase the effectiveness of the program.

研究分野：臨床心理学

キーワード：性的アディクション パラフィリア障害 強迫的性行動症 リスクファクター リスクアセスメント
時間的展望 認知行動療法

1. 研究開始当初の背景

性的アディクションは、現在のところ正式なアディクションとは認められていないものの、性犯罪との関連も深く、社会的に大きな問題を引き起すため、研究の重要性が指摘されている。現時点では、その原因や機序、リスクファクター、治療などについて、研究がきわめて少なく、解明されていない点が多い。

性的アディクションの概念に含まれる障害としては、パラフィリア症、強迫的性行動症がある (Harada, 2024)。わが国においては、痴漢や盗撮などの性犯罪が多く、社会問題化しているが、これらはパラフィリア症の窃触症および窃視症に該当すると考えられる。いずれの場合も、性犯罪のなかでは再犯率が高く、5年間の性犯罪再犯率はそれぞれ 36.7%、35.1%とされている (法務省, 2015)。

近年ではいわゆる「わいせつ教員対策法」が急スピードで成立・施行されたこと、芸能事務所での子どもへの性暴力が社会を揺るがす大問題に発展したことなどからもわかるように、子どもを対象とした性犯罪も大きな注目を集めている。これは、パラフィリア症のなかの小児性愛症だと考えられる。

したがって、これらの問題の基盤にある性的アディクションへの対策は、社会的要請の大きな問題であり、そのリスクファクターを明らかにすることで、有効なアセスメントや治療を開発することが求められている。

2. 研究の目的

本研究は、性的アディクション (パラフィリア症および強迫的性行動症) の認知的・行動的リスクファクターについて、物質使用症と比較検討しながら検討し、さらには精度の高いアセスメントツールの開発を目的とする。

治療に関しては、これまでの研究課題において、すでに認知行動療法による治療プログラムを開発しているが、本研究の知見を活用することで、治療プログラムを改善し、治療効果のさらなる向上を目指すものである。

3. 研究の方法

(1) リスクファクターの検討

パラフィリア症および強迫的性行動症の診断を受け、通院中の患者及び自助グループメンバー167名を研究参加者として質問紙調査を実施した。さらに、前回の科研費研究課題(17K04442)で開発したリスクアセスメント尺度 (Static-99) のほか、新たな潜在的リスクファクターを見出すための、時間的展望尺度、遅延価値割引課題を実施した。

時間的展望とは、現時点における過去、現在、未来に対する認知的見解のことを指し、その特徴によって「過去指向型」「現在指向型」「未来指向型」に分類される。また、遅延価値割引とは、目の前の小さな報酬 (即時小報酬) の価値を過大に見積もり、将来の大きな報酬 (遅延大報酬) の価値を小さく見積もる認知傾向のことである。先行研究では、「現在指向型」の時間的展望や、遅延価値割引傾向はアディクションや非行・犯罪と関連が強いとされている (Daugherty et al., 2010)。

(2) 治療プログラムの開発

前回までの研究課題で開発した認知行動療法的治療プログラムは、主としてパラフィリア症を対象としたものであったため、強迫的性行動症のリスクファクターと今回新たに検討したリスクファクターを標的にした介入要素を追加して、治療プログラムを修正した。治療プログラムは、主として認知行動療法 (リラプス・プリベンション・モデル) に基づいたものとした (Marlatt & Donovan, 2005)。

(3) 治療プログラムのランダム化比較試験のプロトコール開発

治療プログラムの効果を評価するために、ランダム化試験を行うことを予定しており、そのプロトコールを開発した。これは国際的な基準である CONSORT Statement (Schultz et al., 2010) や SPIRIT Guideline (Chan et al., 2013) に準拠したものとした。参加者は自助グループ参加者 30 名程度とし、6 か月間の治療を実施することを予定している。アウトカムとしては、再発 (リラプス) のほか、コーピング尺度、社会的親密性尺度、共感性、時間的展望尺度などを用いる。

実施済みの研究は、いずれも筑波大学の研究倫理審査委員会の承認を得て実施された。

4. 研究成果

性的アディクションのなかでも、性犯罪に密接に関連するパラフィリア症に関して、その再発 (再犯) リスクを査定するリスクアセスメントツール「Static-99」の日本語版を開発し、今回さらに改訂を加えた。この成果は、国内外の学会で発表したほか、国際的学術誌で発表した。

日本版 Static-99 の項目は、オリジナルと同じ 10 項目で、研究参加者の平均年齢は、36.7 ± 9.7 歳であった。

信頼性については、クロンバックの α 係数が 0.88 であり、十分な値となった。また、予測的

妥当性については、オリジナルよりも高い AUC=0.75 (95% CI = 0.63– 0.89) となった (図)。

これを用いて、わが国の性的アディクション患者 (n = 167) のリスク評価を行ったところ、低リスク 8 名、低・中リスク 44 名、中・高リスク 87 名、高リスク 28 名となった。

1 年後の再発率を観察したところ、4 群に有意差が見出され ($\chi^2(3) = 14.43, p < 0.01$) 高リスク群が有意に再発が多く、低リスク群に有意に少ないことがわかった。

また、再発が有意に多いのは、痴漢を行った者であり ($\chi^2(12) = 82.85, p < 0.01$) 独身であること ($\chi^2(12) = 46.61, p < 0.01$) 無職であること ($\chi^2(12) = 21.24, p < 0.05$) 重複疾患があること ($\chi^2(12) = 27.30, p < 0.01$) もそれぞれ有意なリスクファクターであることがわかった (Harada et al., 2023)。

時間的展望、遅延価値割引傾向については、現在解析中である。

治療プログラムは、28 セッションの認知行動療法に基づくリラプス・プリベンション・プログラムを開発し、パラフィリア症、強迫的性行動症のいずれもの患者に対して適用可能なように修正を加えた。形式的な修正としては、「再犯」という用語は避けて、「リラプス」に統一したことが挙げられる。内容的な修正としては、それぞれの病態の医学的・心理学的説明を加えたこと、それぞれに関連する trigger や coping 等について、具体的な例を列挙しながら説明したことなどがある。今後、時間的展望や遅延価値割引傾向などとの関連が明らかになれば、それらに対応する治療要素を追加する予定である。

本研究課題は、コロナ禍によって一時中断を余儀なくされたが、コロナ禍において、性的アディクションや人々の性行動がどのように変化したかについても追加的に調査し、論文にまとめた。

以上の研究成果は、国際学術誌での論文、国内外での学会、専門書などにおいて発表した。さらに、研究成果をもとに、「わいせつ教員対策法」や痴漢・盗撮対策等に関連し、与党ワーキングチームの勉強会、文部科学省、東京都議会等で講演を行ったほか、文部科学省のわいせつ教員問題に関する有識者会議の委員を務め、研究成果を社会に還元する活動を行った。

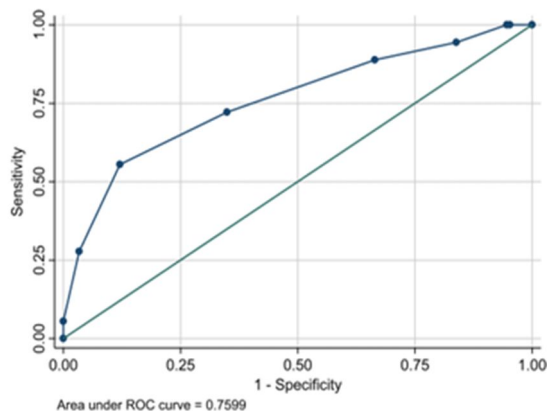


図 日本版 Static-99 の ROC カーブ

引用文献

- Chan, A. W., Tetzlaff, J. M., Altman, D. G., Laupacis, A., Gøtzsche, P. C., Krleža-Jerić, K., ... & Moher, D. (2013). SPIRIT 2013 statement: defining standard protocol items for clinical trials. *Annals of Internal Medicine*, 158(3), 200-207.
- Daugherty, J. R., & Brase, G. L. (2010). Taking time to be healthy: Predicting health behaviors with delay discounting and time perspective. *Personality and Individual Differences*, 48(2), 202-207.
- Harada, T. (2024) Sexual Addictions. In Saunders, J. B., Conigrave, K. M., Latt, N. C., Nutt, D. J., Marshall, E. J., Ling, W., & Higuchi, S. (Eds.). *Addiction Medicine. 3rd edition*. Oxford: Oxford University Press.
- Harada, T., Nomura, K., Shimada, H., & Kawakami, N. (2023). Development of a risk assessment tool for Japanese sex offenders: The Japanese Static 99. *Neuropsychopharmacology Reports*, 43(4), 496-504.
- 法務省(2015) 平成 27 年版犯罪白書
- Marlatt, G. A. & Donovan, D. M. (2005) *Relapse Prevention: Maintenance Strategies in the Treatment of Addictive Behaviors. 2nd edition*. New York: The Guilford Press.
- Schulz, K. F., Altman, D. G., & Moher, D. (2010). CONSORT 2010 statement: Updated guidelines for reporting parallel group randomised trials. *Journal of Pharmacology and Pharmacotherapeutics*, 1(2), 100-107.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 Harada T, Nomura K, Shimada H	4. 巻 2023, March
2. 論文標題 Development of a risk assessment tool for Japanese sex offenders: The Japanese Static-99	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Neuropsychopharmacol Report	6. 最初と最後の頁 496-504
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1002/npr2.12330	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 原田隆之	4. 巻 35(9)
2. 論文標題 精神病質から反社会性パーソナリティ障害へ	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 精神科治療学	6. 最初と最後の頁 983-988
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 原田隆之	4. 巻 149(6)
2. 論文標題 行動嗜癖に対する精神療法	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本医師会雑誌	6. 最初と最後の頁 1049-1052
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 原田隆之	4. 巻 283(6)
2. 論文標題 性的嗜癖行動	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 医学のあゆみ	6. 最初と最後の頁 674-678
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 原田隆之	4. 巻 66(7)
2. 論文標題 コロナ禍における性行動と性的アディクション	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 精神医学	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計10件 (うち招待講演 6件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 原田隆之
2. 発表標題 子どもを性犯罪から守るには
3. 学会等名 日本犯罪心理学会 (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 原田隆之
2. 発表標題 治療効果をいかに高めるか : FidelityとIntegrityに着目して
3. 学会等名 日本アルコール・アディクション医学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 原田隆之
2. 発表標題 アディクションへの認知行動療法
3. 学会等名 日本認知・行動療法学会第46回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 原田隆之
2. 発表標題 再犯予防のためのCBT
3. 学会等名 第20回日本認知療法・認知行動療法学会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 原田隆之
2. 発表標題 性的アディクションへの認知行動療法
3. 学会等名 2023年度アルコール・薬物依存関連学会合同学術総会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Takayuki Harada, Kazutaka Nomura, Hironori Shimada, Norito Kawakami
2. 発表標題 Development of risk assessment tool of paraphilic sexual behavior: The Japanese Static-99
3. 学会等名 8th International Conference on Behavioral Addictions
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 原田隆之
2. 発表標題 アディクション（依存症）の理解と対応法
3. 学会等名 日本カウンセリング学会第54回大会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 原田隆之、谷真如、山田英治
2. 発表標題 司法・犯罪分野における認知行動療法
3. 学会等名 日本認知・行動療法学会 第48回大会（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 原田隆之
2. 発表標題 司法・犯罪分野における科学者・実践家モデルに基づく公認心理師の社会貢献
3. 学会等名 日本犯罪心理学会第59回大会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 原田隆之
2. 発表標題 アディクション領域でのエビデンス・ベイスト・プラクティス
3. 学会等名 第54回日本アルコール・アディクション医学会（招待講演）
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計7件

1. 著者名 原田隆之 下山晴彦（編）	4. 発行年 2023年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 364
3. 書名 現代の臨床心理学5 臨床心理学と心の健康 アディクションの予防と治療	

1. 著者名 John Saunders, Takayuki Harada, et al.	4. 発行年 2024年
2. 出版社 Oxford University Press	5. 総ページ数 864
3. 書名 Addiction Medicine (3rd edition)	

1. 著者名 原田隆之・堀口康太・田附あえか	4. 発行年 2020年
2. 出版社 金剛出版	5. 総ページ数 176
3. 書名 子どもを虐待から守る科学	

1. 著者名 原田隆之	4. 発行年 2021年
2. 出版社 文藝春秋	5. 総ページ数 279
3. 書名 あなたもきっと依存症：「快と不安」の病	

1. 著者名 金沢吉展・原田隆之ほか	4. 発行年 2021年
2. 出版社 講談社	5. 総ページ数 256
3. 書名 公認心理師ベーシック講座：健康・医療心理学	

1. 著者名 原田隆之・森田太樹・浦田洋ほか	4. 発行年 2022年
2. 出版社 講談社	5. 総ページ数 272
3. 書名 公認心理師ベーシック講座 司法・犯罪心理学	

1. 著者名 樋口進、原田隆之ほか	4. 発行年 2023年
2. 出版社 中山書店	5. 総ページ数 616
3. 書名 物質使用症又は嗜癮行動症群、性別不合	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	森田 太樹 (Morita Daiki)		
研究協力者	井上 俊明 (Inoue Toshiaki)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------